



授業参観、教育相談(個別面談)はいかがだったでしょうか？

写真は親子で田植えを行った5年生の様子です。ひまわりTVからの取材もありました。



教育相談(個別面談)の目的は、ニーズに応じた個別最適な対話を通して、学級担任と保護者の方で共通理解を図ることが主眼であると考えています。より効果的な教育活動を進めていくには、より適切な児童理解が前提であるからです。

縦割り班掃除スタート

縦割り班掃除は諸外国でも導入が進んでいる日本型学校教育で価値ある特別活動のうち、児童会活動の異年齢集団による交流に当たると考えています。



中心となって活動を進める高学年の児童が、リーダーとしての経験を重ねながら自分の役割を果たすなどの主体性が発揮されます。そうした中で高学年としての自覚や自己有用感を高められます。

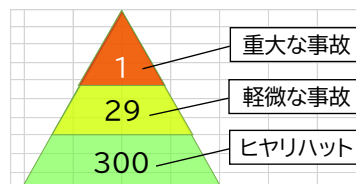
また、下学年の児童にとっては上学年の児童に親しみやあこがれ、尊敬の気持ちを持ち、「自分もこうなりたい」という思いや願いをもつことによって、日々の学校生活に目標や希望をもつことにつながります。

ヒヤリハットは目の前に

7月5日の登校時のことです。ある登校班の先頭の児童が左右を確認することなく横断歩道を渡ろうとしました。そこへ自転車に乗った中学生が音もなく通過しました。危うくぶつかりそうなところでした。幸い自動車の往来はなかったのですが、もしそこに自動車があれば、大きな事故にもなりかねないところでした。

ヒヤリハットという言葉が聞かれた方もいらっしゃると思います。重大な災害や事故に直結する一歩手前の出来事のことをいいます。思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故寸前のミスに「ハッ」としたりすることが名前の由来です。

併せて「ハインリッヒの法則」もよく紹介されるものです。「1件の重大事故の背後には29件



の軽微な事故があり、さらにその背後には300件の異常が存在する」というものです。ヒヤリハットは「事故にならなくて一安心」で終わらせず、その経験を活かしてヒヤリハットの再発防止に努めることが、軽微な事故、ひいては重大事故を未然に防ぐために重要であることが分かります。

「見守られているから安全・安心」は100%の保障とは言い切れません。子供に限らず、自らの身を守るために危険予測能力や危機回避能力を身に付け、磨いていく必要があります。そして、これらは常日頃から習慣付けておくことが肝要です。